

## 第3回検討会を踏まえた今後の対応(案)について

平成28年3月

### 第3回検討会を踏まえた今後の対応（案）について

ご意見	検討会	今後の対応（案）	備考
<b>■焼山地区ワンドについて</b>			
①焼山地区のワンド環境の課題改善には、湧水量の確保が最重要である。	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年10月より水位の連続モニタリングを開始し、12月に地下水調査を実施した。</li> <li>調査結果を踏まえ、今後の対策の方向性について意見を頂きたい。</li> <li>焼山地区直上の満願寺水位観測所ではほぼ変化なし、下流では約1m低下しているが、湧水量との明確な関連性はわからない。</li> </ul>	資料3 焼山地区ワンドの現状と今後の対応について
②対策検討には、湧水量が少ない現況のメカニズムを把握すべきであり、周辺の地下水調査が必要である。	第3回		
③湧水が豊富であった時代に比べ、本川水位が低下している可能性がある。	第3回		
④指標種であるニホンイトヨは、平成27年10月に新潟県第2次レッドリストにて、絶滅危惧Ⅰ類に格上げされた。県内でもほとんど確認されていないことから、本地区での確認は難しいかもしれない。	第3回		
<b>■平成27年度モニタリング調査結果（速報）等について</b>			
①（焼山地区について）湧水量が、ワンドの大きさに比べると少ないようである。一部の河床が還元状態となっているので、今後もモニタリングが必要である。	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きモニタリングにより確認していく。</li> </ul>	資料3 焼山地区ワンドの現状と今後の対応について
<b>■阿賀野川自然再生計画書（案）の更新について</b>			
①ワンド新規2箇所整備、及び工程の変更を確認した。	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き自然再生を推進する。</li> </ul>	資料5 阿賀野川自然再生計画書の更新について
②掘削によるワンド整備を内岸側砂州で実施する場合は、水路幅等が単調にならないよう、平面形・断面形ともに変化を持たせた形状とするのがよい。	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の設計で検討する。</li> <li>整備済み箇所については、引き続きモニタリングにより地形変化を追跡する。</li> </ul>	
③早出川の良好なワンドの経年変化や、焼山地区上流のたまり形状は、ワンド形状の参考としてはどうか。	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な環境について、現地形状を把握した上で、今後の設計の参考にする。</li> </ul>	
④最近の研究速報では、水制工により川幅に変化をつける場合に、なめらかな平面形状にした方が、水制工周りの洗掘が抑制されることが分かってきた。	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>早出川の試験施工実施計画に反映させる。</li> </ul>	
⑤自然の営力を活かしたワンド再生が阿賀野川自然再生の趣旨であるため、掘削工法だけにしないようにしなければならない。	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の営力を活かしたワンドの再生については、早出川での試験施工結果等を踏まえ、水ヶ曾根地区河原再生の設計にて検討する。</li> </ul>	資料5 阿賀野川自然再生計画書の更新について